



月間 金融マーケット展望

2022年1月27日

アセンダント 山中康司

はじめにお読みください

<当社主催のセミナーについて>

- 本セミナーにて紹介する内容は、外国為替や株価指数取引に関する情報ですが、通貨や指数の種類に関わらずその売買を推奨するものではありません。
- 本セミナーにて紹介する内容は、特定の投資目的、金融情勢、あるいは特定の方のニーズを考慮ものではありません。
- 本セミナーにて紹介する情報は、信頼できる情報源から入手されたものですが、その正確性、完全性を保証するものではなく、当該情報または意見を信頼したことに起因して発生するいかなる直接的、間接的または結果的損失についても、弊社はいかなる責任も負いません。投資に関する判断の最終決定は、ご自身で判断されますようお願いいたします。
- 当セミナーにおいて、弊社の外国為替証拠金取引、CFD取引及びオプション取引への勧誘を行う場合もございます。
- アセダントおよびフォレックス・ドットコムは、本日のセミナーで示す手法の利用により生ずるいかなる損害の責任を負うものではありません。

ラジオ日経・FOREXチャンネル

FOREXチャンネル

番組紹介

ラジオNIKKEI第1 毎週火曜日 16:00～16:30

提供：FOREX.com

トレーダー目線を大切に！投資巧者の出演者がトレード手法を指南。マニアックに深掘りするテクニカル分析などトレードアイディア豊富にお送りします。

ノックアウトオプションなど、シンプルで新たな金融商品も紹介。

本日の内容

- ◆ FOREX.comからのお知らせ
 - ◆ 株価指数CFD、ノックアウトオプション
 - ◆ 事前にいただいた質問から
- ◆ 月間金融マーケット展望
 - ◆ 前回以降の金融市場振り返り
 - ◆ ファンダメンタルとテクニカルな観点
 - ◆ 来月のセミナー予定

株価指数取引をリリース

¥

株価指数CFD

- ◆ CFD = Contract For Difference (差金決済)
- ◆ CFDの種類
- ◆ 為替CFD = いわゆるFX
- ◆ 証券CFD
 - ◆ 株価指数CFD (日経平均、NYダウなど) → 今回のリリース
 - ◆ 個別株CFD (日本株、米国株など)
- ◆ 商品CFD

株価指数CFDのメリット

- ◆ 株価指数に連動し、売りからも入れる
- ◆ レバレッジが効くので資金効率が高い
- ◆ ほぼ一日中取引が可能
 - ◆ 日経CFDの取引時間＝東京08:00～翌07:00
- ◆ 手数料無料

CFDはTradingViewでもトレード可能

FOREX.com

FOREX.comのユーザー名

パスワード

記憶しないで下さい

接続

ブローカーに接続する事で、[ご利用上の注意](#)と[利用規約](#)を確認し、すべてのリスクを受け入れる事を承諾した事となります。

株価指数ノックアウトオプション

- ◆ 株価指数でもノックアウトオプション取引
- ◆ 取引概要はFXのノックアウトオプションと同様
 - ◆ ノックアウトUP、ノックアウトDOWN
 - ◆ オプション料＝最大損失額で更に高い資金効率

※詳細はホームページで確認

金融マーケット展望



最近の金融市場全体の概要

- ◆ 各市場で大きな動きが始まる
 - ◆ 金利市場＝FRBは引き締め加速
主要国は急上昇するCPIに強い懸念
 - ◆ 債券市場＝10年債利回りは1.9%台乗せ
1.9%台は2020年1月2日以来
 - ◆ 株式市場＝高値圏からの下降局面入り
 - ◆ 商品市場＝NY原油は昨年高値を上抜け
 - ◆ 為替市場＝ドル高＋円高
 - ◆ 暗号資産＝下降トレンド継続

主要中銀の金融政策(1)

◆ FOMC(1月26日)

テーパリングは3月終了、12月の金利見通しでは年内3回の利上げ

- ◆ 金利見通しは無いが一段の引き締めに言及する可能性
→初回利上げ3月を示唆など

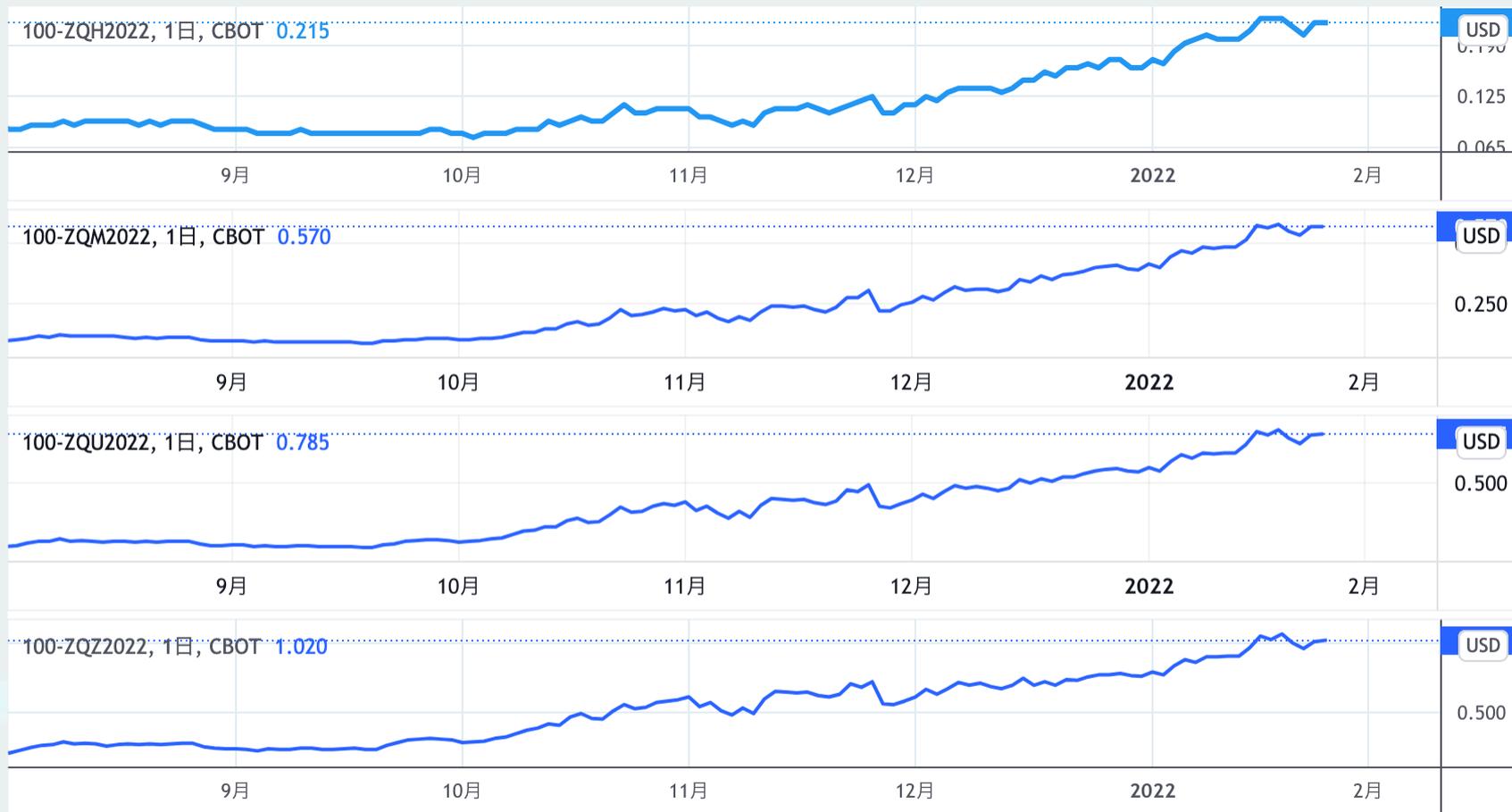
◆ ECB理事会(次回2月3日)

- ◆ 12月理事会でPEPPの3月終了と4月以降のAPP増額を決定
- ◆ ECBはインフレ率を2%に付近に引き下げることがを目標
→12月CPIは5.0%と過去最高・・・APP増額見直しもあるか

主要中銀の金融政策(2)

- ◆ 英中銀(次回2月3日)
 - ◆ 12月15日MPCで0.1%から0.25%へと利上げ
 - ◆ 英国のCPIも5.4%とターゲットを大幅に上回る
 - ◆ 2月MPCでは追加利上げとバランスシート縮小に言及か
- ◆ 日銀会合(次回3月18日)
 - ◆ 1月18日会合では軸をぶらさず強力な緩和方針を発信
→事前に出た緩和縮小観測の否定
 - ◆ 携帯料金値下げの影響が無くなる4月以降のCPI

FF先物の主要限月



TradingView

米国CPI推移

対象月	前年比
◆ 5月分	+5.0%
◆ 6月分	+5.4%
◆ 7月分	+5.4%
◆ 8月分	+5.3%
◆ 9月分	+5.4%
◆ 10月分	+6.2%
◆ 11月分	+6.8%
◆ 12月分	+7.0%

年率7%台は1982年6月以来

雇用統計推移

◆ 対象月	NFP	失業率
◆ 5月分	+559K	+5.8%
◆ 6月分	+850K	+5.9%
◆ 7月分	+943K	+5.4%
◆ 8月分	+235K	+5.2%
◆ 9月分	+194K	+4.8%
◆ 10月分	+531K	+4.6%
◆ 11月分	+210K	+4.2%
◆ 12月分	+199K	+3.9%

コロナ前まであと350万
人

ウクライナ問題(1)

- ◆ 2004年「オレンジ革命」
 - ◆ 親ロシア与党と親欧米野党による大統領選で当初当選した与党候補がやり直し選挙で敗北し野党候補が大統領に(米国介入か)
- ◆ 2014年「クリミア併合」
 - ◆ 親ロシアが多いクリミア自治共和国をロシアが併合する条約に調印
- ◆ ウクライナの欧州接近
 - ◆ NATOの東方拡大(旧東欧)の中でウクライナとグルジアは保留
 - ◆ 国民の過半数は参加を望むもロシアは認めず

ウクライナ問題(2)

- ◆ ロシアによるウクライナ併合の可能性
 - ◆ 戦争にまで発展する可能性は低い
 - ◆ ロシアと親ロシア派が組んで併合の条約に調印という可能性
→欧米としてはクリミアの失敗は繰り返せない
- ◆ 資源国ロシアとしての問題
 - ◆ ロシア産天然ガスに頼る欧州
 - ◆ パイプラインノルドストリームはロシアからウクライナ経由で欧州へ
 - ◆ 欧州はノルドストリームを停止すると言ふものの更なるインフレを招く
 - ◆ 代替エネルギーの確保は可能か

その他の材料

- ◆ オミクロン株について
 - ◆ 危険な変異株が登場する可能性は否定できないものの英国流の極端な規制をしない方針が正しいように見える
- ◆ 中国の不動産バブル
 - ◆ エバーグランデの処理
- ◆ 米国中間選挙(11月8日)
 - ◆ 景気対策の遅れ、コロナ対策への不満、アフガンでの失策、止まらないインフレなど、民主党が敗ける可能性大

US Tech 100週足



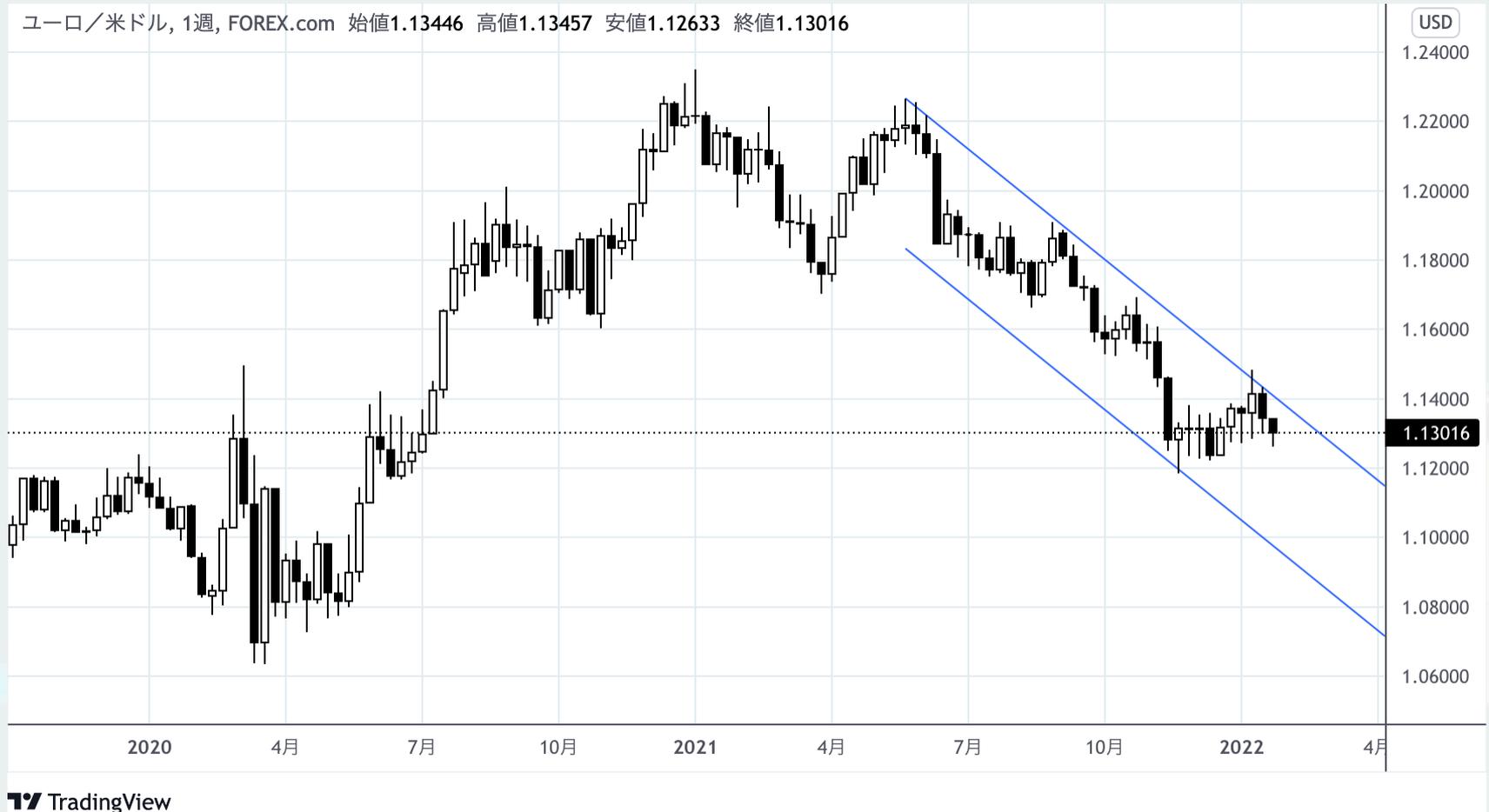
米国10年債利回り週足



ドル円週足



ユーロドル週足



セミナーサポート掲示板

◆ <http://seminar-support.bbs.fc2.com>

セミナーサポート掲示板
Total:387

一覧(新規投稿) | Home | ワード検索 | 使い方 | 携帯へURLを送る | 管理

お名前	<input type="text"/>
件名	<input type="text"/>
メッセージ	<div><p><input type="checkbox"/>絵文字 <input type="checkbox"/>絵文字 <input type="checkbox"/>絵文字 <input type="checkbox"/>動画</p><div style="border: 1px solid gray; height: 100px; width: 100%;"></div></div>
画像	<input type="button" value="参照..."/>
メールアドレス	<input type="text"/>
ホームページ	<input type="text"/>
アイコン	アイコンなし ▾
文字色	<input type="radio"/>
編集/削除パスワード	<input type="text"/>
プレビューする	<input type="checkbox"/> (投稿前に、内容をプレビューして確認できます)

次回セミナーのお知らせ

- ◆ 2月24日(木)20時～
「月間 金融マーケット展望」
 - ◆ 取り扱うテーマ(予定)
 - ◆ 振り返りと主要市場の値動き
 - ◆ 質問もお待ちしております